

2025年度

(令和7年度)

学校評価自己評価表

済美中学校区

校番7

福山市立済美中学校

最終更新日

2025年(令和7年)4月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	中学校区として 統一した取組等
	校区共通のミッション・ビジョンを持ち、各校の課題に取り組みられています。「主体的、対話的で深く確かな学び」に取り組まれ、学ぶ力、成長する力の授業づくりを大切にされています。他者とかかわりを重視され、不登校児童生徒への取組みも評価できます。今後さらに、児童生徒の活動状況等を広く情報発信し保護者や地域との情報共有に努め、保護者、地域を巻き込んだ教育活動に取り組むとともに、各校の児童会・生徒会の交流の場が必要と考えます。	○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。 ○学校や地域の課題を踏まえて、何か必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化できる児童生徒が少ない。 ○相手意識を持った行動が不十分な児童・生徒が多い。 ○長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○他者とかかわり合う力・心	①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築き、共によりよく生きようとしている。	○「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成

III 自校	ミッション	育成する力 資質・能力	○課題発見・解決力 (問いを持つ ふり返る 見通す)	○コミュニケーション力 (聴く 伝える まとめる)	○他者とかかわり合う力・心 (思いやり 社会性 貢献)
	○「済美になろう」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。 ○地域の一員としての役割意識をもって、地域に貢献できる生徒を育成する。	めざす子ども像	1年	活動して気付いた・考えたことなどを振り返り、次の(新たな)目標や課題を見出し、次の活動につなげることができる。	自分の考えを、他者に分かりやすく(例えば話の挿入、図表や絵・写真・ボードの活用、話し方や声のボリューム・トーンの工夫など)伝え、理解・納得を得ることができる。
	学校教育目標		2年 3年	活動して気付いた・考えたことやその意味・価値・つながり等を振り返り、見出した次の(新たな)目標や課題を、見通しを立て情報を収集・整理・活用しながら(他者を巻き込んで)解決・達成していくことができる。	自分の考えを他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得等を繰り返して、考えを広げ深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したたりすることができる。
	現 状	研究	テーマ	生徒の主体的な学びを進めるファシリテート	
	<生徒> ・令和6年度全国学力・学習状況調査の国語、数学の平均正答率は、それぞれ、53%、49%ですべて市平均を下回っている。令和6年度学力の伸びを把握する調査では、学力を伸ばした生徒の割合は、3年数学だけが市平均を上回っている。 ・「自分には将来の夢や目標がある」生徒66.7%、「自分にはよい所がある」77.4%、「自分のよさはみんなから認められている」72.0%と県平均を下回っている。 ・メディアの使用時間の増加に伴って、学習時間が減少している。保護者の協力を受けながら家庭学習の支援を継続して行っていく。 <授業> ・「勉強の計画を立てる」49%、「自ら進んで勉強している」59%、「学習を最後までやり遂げてうれしかったことがある」79%、「なぜだろう、やってみたいと思う」58%である ・「教科の面白さを実感している」教員77%、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている」教員61%、「自分が知らないことを生徒と一緒に考える時間が楽しい」教員77%である。		内容等	○単元指導計画の工夫 ① 単元を貫く問いや課題設定の吟味(教材研究の充実) ② 生徒相互の学び合いの質の向上 ③ 振り返りの充実	
		めざす授業の姿		○一人一人が自分で考え、間違いを恐れずに意見を交わし、共に学び合っている。 ○学びを振り返り、分かったこと、考えたことを豊かに表現している。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	済美中	学校
------	-----	----

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	課題発見解決力、コミュニケーション力の育成	★	継続	自ら課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	・学期ごとに生徒アンケートを分析し、授業改善に取り組む。 ・各種調査の結果を分析し、全教職員が授業に取り入れることで、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。 ・生徒が自ら目標を決め、自ら学ぶ場を創造する。 ・教職員がICTを授業の中で効果的に活用する	・「授業で学習課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思います。」と「授業で他の生徒と一緒に考えることはおもしろいです。」90%以上 ・学力調査 市平均以上。 ・「人はどのように学ぶか、何にますますかについて関心をもち、教材研究を行っている。」90%（教職員アンケート） ・「授業では、自分にあった考え、教材（授業プリント等）、学習時間などになっていましたか」90%以上（生徒アンケート）									
3	他者とかかわり合う力・心の育成		継続	済美6行動の「人のために動く」活動を活性化させ、生徒の自己有用感を高める。	係活動や教科係の役割を担うことで、学級内での居場所をつくり、自己効用感を高める。 ・全教員が各生徒への肯定的評価を積極的に行う。 ・生徒会を中心として生徒が企画・運営する活動を増やす。 ・不登校対策担当教員を中心に、不登校生徒対応を充実できる。	・「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」95%以上 ・「先生は、自分のことを見てくれている」95%以上 ・不登校生徒の割合が前年度市平均以下（諸課題集計表） ・不登校対策会議を月1回以上もち、子どもの変化をいち早く把握・共有・対応を行う。									
1	生徒及び教職員が元気・笑顔で生活・勤務できる環境づくり		新規	生徒及び教職員が主体的に目標設定や改善策を考え、充実感を持って生活する。	・「スケジュール管理」と「ノーマディアDay」を設定し、生活習慣を見直す。 ・地域への情報発信と交流を行う。 ・企画委員会等で業務改善等の協議を行うとともに自身の資質向上に係る目標・方策を設定し、取り組む。	・「勉強の計画を立てる」55%、「自ら進んで勉強している」60%以上 ・「地域に貢献している」生徒80%以上 ・「日々の仕事の中でやりがいや充実感（達成感）を得られている」教職員90%以上									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。